Pieris mannii は日本に產するか？

江崎悌三

Does *Pieris mannii* occur in Japan?

By TEISO ESAKI

南ヨーロッパに *Pieris rapae* (LINNÉ)（モンシロチョウ）に酷似した *Pieris mannii* (MAYER, 1851) という蝶がある．これは最初バルカンの Spalato から独立種として記載されたのであるが，VERITY の大著 Rhopalocera palaearctica 1:158, 1908; 335, 1911に於いては最初 *rapae* の var. として，後に独立種として取扱われている．その間に本種の卵や幼虫や蛹が POWELL によって研究された(Ent. Rec. 21:37-40, 60-72, pl.4,1909)，また genitalia の比較や，*rapae* との交配実験が行われ (LORKOVIĆ, 1928), *rapae* との F_1 はすべて不妊であることが解り，現在では別種として取扱われ，また SEITZ (RÖBER, 1:47, 1907; BOLLOW, Suppl 1:97, 1930) に於いても別種となっている．

VERITY の最近に書いた尨大なイタリア蝶譜の中でもやはり独立種となっている．(Farfalle diurne d'Italia 3: 218-231, 1947)．この種の確実な分布地域はフランス西部及び南部，スペイン，イタリア，スイス南部，バルカン諸国，南ロシア，トルクメニア等であるが，VERITY の旧著 (op. cit.: 159,336) によると，さらに北米合衆国，支那及び日本に及んでいる．このVERITYの書いた産地“Japon”の典拠は OBERTHUR にあるので，それには“Le *Pieris Manni* se trouve au Japon (île Shikoku) et en Chine, d'où je crois pas qu'on l'ait encore signallée”とある (Etud. lépidopt. 3: 130, 1909)．すなわち詳しい産地や日附は解らないが，四国から記録されているのである．もし実際日本にもいるものとすれば，四国だけでなくて本州や九州にもいるであろう．

VERITY “Farfalle diurne d'Italia” Vol. 3, Tav. 33. 1950. 黒線より上が *Pieris mannii* の諸型，下が *Pieris rapae* の諸型

本種は1頭だけ見ると *rapae* との区別はなかなか難かしい，しかし VERITY のイタリア蝶譜にある様に両種の多数のものを並べてあるのを見ると確かに区別がある．VERITY の詳述している区別点の中主なる点を述べて見ると，*mannii* は *rapae* に比べると，（1）平均して遥かに小形であり；（2）翅は短かく，幅広く，前翅端は円く；（3）♀の翅の基部の黄色を帯びることは遥かに少く；（4）縁毛は *rapae* では全部白いのに反し，*mannii* では翅端部では黒，灰色または斑をなしている；（5）翅端の黒斑は一層よく発達し，鎌状をなし，その内側は彎入し，その後端は外縁に沿うて細く伸びて，翅の中央部で終っている；（6）♂の中央紋は *rapae* より

は外縁に近く位置し，遙かに大きく，内方へ向ってやや半月状をなし，♀に於いては大きく，やや四角形をなす．この紋は勿論小さい場合もあるが，春型に於いても *rapae* の如く消失することはほとんどない．

私は OBERTHUR が恐らく少数の標本で日本にも *mannii* がいるとしたことについては，かなり疑問をもっている．上記のような delicate な区別点であると，個体変異の方が更に著しいこともあるので，多数の標本を集めなければ決定は難かしいと思う．しかし“日本”から記録のある以上，われわれとして黒白を明かにする必要があり，切に多数の方の御注意を願う次才である．

評議員会と江崎会長歓迎会

江崎会長が上京の帰路大阪に立寄られた機会をとらえて，4月12日午后3時から評議員会を開催した．その結果決定した事項は次の通りである．

（1）日本鱗翅学会会報“蝶と蛾”はその欧名を従来“BUTTERFLIES AND MOTHS”としていたが，これを今後ローマ字にて“TYÔ TO GA”と表わすことに改める．

（2）本年度の総会は9月末頃に京都で開催することにほゞ決定した．詳細な日時は未定であるが，型式は昨年と同様シンポジウムとする．そしてそのテーマは広く会員諸氏から募集する．従って何か適当なテーマがあれば6月末までに御一報願いたい．

大いに語る江崎会長（左）と竹内氏

評議員会終了後，心斎橋不二屋において在京阪有志による江崎会長歓迎会を行った．出席者は，江崎会長をはじめ，竹内吉蔵，箕浦忠愛，一色周知，中根猛彦，伊藤修四郎の各氏及び林，秦，緒方の9名．話は虫のことから，江崎会長御自慢の切手のことにまで及び，あげくのはては御持参の昆虫切手の回覧まではじまる始末で，夜の更けるのも忘れておそくまで愉快に談笑し，午后10時頃散会した．

短報 1954年4月15日，私が京都貴船で採集した蝶のうち，注目すべき異常型二つを見出したので，こゝに報告する．一つはスヂグロチョウ♀で，翅の地色が，表裏とも白色でなく，強く（やゝ褐色がゝった）黄色を呈していることで，欧洲産の *napi* ♀には黄色や褐色がかったものはしられているが，日本からこうした例は余り記録されていないように思う．標本は新しいものであった．

他の一つはスギタニルリシジミ♂で，異常は後翅表面にある．というのは，後翅表面は紫藍色に光らず，黒くみえることである．ルーペでみると紫藍色の鱗粉が非常に少いことがわかった．本種の裏面は変異の多いものだが，こうした異常は珍しいと思う．

次に私が New Entomologist (Vol. 3. Nos. 2 & 3) に記載したキマダラルリツバメ異常型 *morii* は，当時♂のみしられていたが，今年，森石雄氏は♀も同型を採集したとおしらせ下さった．何れ委くは同氏から発表されよう．こゝに記録して同氏に謝意を表する．

（村山修一記）

木下周太氏 本会会員，日本植物防疫協会理事長，昆虫学界の長老の一人であった氏は去る3月26日急逝された．ここにつつしんで哀悼の意を表する．

日本鱗翅学会会報 „蝶と蛾"
日本鱗翅学会
大阪市東区今橋3丁目18 緒方病院内
振替口座京都15914番 電話北濱(23)3255 代
1955年5月15日

Published by
The Lepidopterological Society of Japan
c/o OGATA HOSPITAL, No.18, 3-chome,
Imabashi, Higashiku, Osaka, Japan.
15. May, 1955